

令和5年7月19日

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

| | | |
|------------|----------|-------|
| 長崎県 | | |
| 学 校 名 | 管理機関名 | 設置者の別 |
| 長崎県立壱岐高等学校 | 長崎県教育委員会 | 公立 |

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

| 学 校 名 | 特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL |
|------------|---|
| 長崎県立壱岐高等学校 | https://www2.news.ed.jp/bunrui/syukai/katei/70270katei/70270e-asia/183186.html |

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

| 学 校 名 | 自己評価結果の公表 URL | 学校関係者評価結果の公表 URL |
|------------|---|---|
| 長崎県立壱岐高等学校 | https://www2.news.ed.jp/bunrui/syukai/sonota-sy/70270sonota/70270hyouka/181034.html | https://www2.news.ed.jp/bunrui/syukai/sonota-sy/70270sonota/70270hyouka/181034.html |

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

①特別の教育課程に基づく教育を実施するための体制（校務分掌等）について

標記の教育の実施における体制として、学級担任及び副担任（地歴公民科教員や中国語指導教員を含む）、東アジアコース主任、教務主任で構成した東アジア歴史・中国語コース会を設けている。また、離島留学制度で入学した島外出身生徒の生活支援等に対しては、教頭、学級担任、学年主任等からなる「離島留学委員会」や里親と連携を行う「里

親連絡協議会」を設けている。

②指導計画及び授業の内容

特別の教育課程に基づく授業を実施するために設定した学校設定教科「東アジア学」において、合計8科目（歴史学入門・考古学入門・アジア交流史・課題研究・基礎中国語・中国語会話・中国語購読・中国歴史文化研究）を設定した。

③児童・生徒への教育上の配慮等

学校設定科目の履修者は少人数であるため、野外実習やレポート作成等の場面において、各生徒に対し個別指導をすることができる。中国語・歴史学ともに授業だけでなく、授業時間以外での指導を個々に行っている。また、県からの補助を受けて、「高校生の上海語学研修」や「歴史学巡検」を個々に行っている。また、県からの補助により、「高校生の上海語学研修」や「歴史学巡検」等の研修事業を実施することで、経済的負担を軽減し、実践経験を積むことができる。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
・ 実施していない

<特記事項>

- ①島内、島外中学校への訪問・説明会を実施
- ②県教委主催の離島留学説明会における説明（長崎県内・福岡県・大阪府・東京都等で実施）
- ③香崎市と連携した広報の実施
- ④フェリーターミナル等でのポスター掲示や学校・東アジアコース案内の各種機関への配布
- ⑤学校ホームページや学校便り等において東アジアコース生徒の活躍や行事等を紹介
URL : <https://www2.news.ed.jp/section/iki-h/>
- ⑥年1回の東アジアコース紀要の発行と関係学校・機関への配布
- ⑦地元ケーブルテレビや新聞等、各メディアへの出演や掲載
- ⑧東アジアコース宿泊体験・体験入学の実施
- ⑨課題研究や教育活動の発表

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は歴史学や考古学、中国語を深く学ぶことができるよう少人数で教育を行うものである。

実際には以下のような成果が上がっている。今後も教育の成果を維持しつつ、生徒の満足度を高めていく必要がある。

- ①中国語スピーチコンテストや歴史論文コンクール等各種大会での入賞
- ②中国語検定や歴史検定等、各種検定資格の取得
- ③上海外国語大学や国内大学の歴史学科・中国語学科系統への進学
- ④中国語を生かした一般企業への就職

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を実施している本校の東アジア歴史・中国語コースでは、地歴・公民や中国語などの学習において優れた効果が上がっている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

本コースへの入学者はこの3年間、毎年度10名前後で一定している。一方で、担任や副担任を複数配置することで、生徒に対するきめ細かな指導や配慮に努めている。今後は、東アジア歴史・中国語コースをさらに充実させ、今まで以上に生徒へのサポート体制や教職員の連携を充実させていく必要がある。また、本コースは地域の特色を活かした教育活動を行っているため、地域創生を念頭に、充実した情報発信を継続させ、学校説明会や体験入学などで入学予定者との理解を深めながら、入学者数の増加、特に地元中学校からの入学者の確保に努めていかなければならない。なお、中国語、歴史学の両方で、教育活動の成果や進学実績が向上しているため、この点も外部に積極的に発信し、本コースの発展と地域への貢献に努めていきたい。